

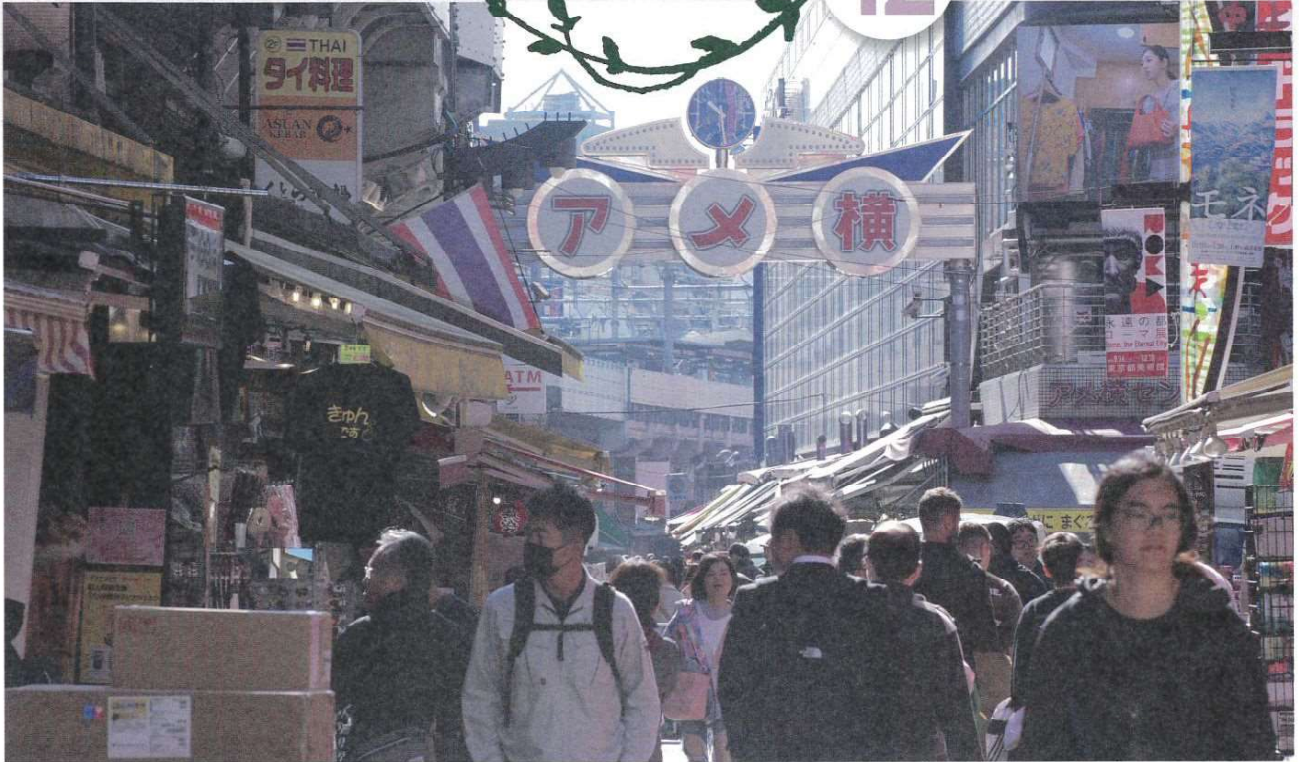
〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
 発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
 TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
 発行人 山崎 哲
 編集長 仲井 真裕
 印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



令和5年
12月号

NO.
551

大悲に生きる人とあう
 願いに生きる人となる



上野アメ横商店街(台東区)

西徳寺の予定

12月

9日(土)	午後5時半	同行会『勸衆偈』に聞く 法話:仲井 真裕
12日(火)	午後3時	総代会
13日(水)	午後1時半	婦人会間法会
16日(土)	午後2時	定例間法会
31日(日)	午後3時	歳暮法要

1月

1日(月)	午前7時	修正会
14日(日)	午後3時半	評議員会新年会
20日(土)	午後2時	定例間法会
21日(日)	午前11時	婦人会新年会
27日(土)	午後5時半	同行会新年会

※予定は変更することがあります。
 詳しくは寺務所までお問合せください。

顧問の一言

因縁をつける

ケンカを売られたとき、「因縁をつけられた」と使うことがあります。「因縁」は仏教から派生した言葉ですが、相手から関係を繋いできたという意味です。

念仏の教えでは、阿弥陀仏の方から私たちの方に歩み寄ってくるということで、具体的には『大無量寿経』に説かれる本願が、「南無阿弥陀仏」という名号となって私たちに届けられているということです。

様々な因縁(ご縁)を元として生きる私たち。その中で仏様から私たちにつけられてくる因縁は、私たちの生きていく意味を明らかにする尊い仏縁なのです。



12月の山門の言葉

えこおファイル在庫あります。



渋柿ほど甘柿に転じる

幼い頃、庭の柿をもいで食べたなら、恐ろしく渋く吐き出した。いつも食卓にあがる甘い柿を想像していたからびつくりした思い出がある。天日に干して甘くなることをその時に学んだ。

とても不思議な現象だ。干し柿は、渋いほど甘くなる。全く逆転するのである。若い頃ヤンチャをしていた人が、突然生まれ変わるのと似ている。そんな方とお話すると、大概は「若い頃は好き勝手やって両親に迷惑や心配をかけた」という類いの、思い出話というよりも、反省にも聞こえる言葉をいわれる。渋柿が甘柿に変わるメカニズムはわからないし、まさか渋柿が反省してるわけもないが、人間に通じるものを感じる。

生まれながらに自我がそなわる人間は、いわば渋柿ではないだろうか。自己主張を持ち、個人的な願いを押しつけるすがたは、周りの人からすれば渋いことが多い。そういう私には常に叱ってくれる方が居た。「お前は自分勝手だ」「皆が心配している」……その時は嫌で仕方が無かった。しかし時間を掛けながら僅かながらにも、染みこんでくるものがある。「今日ここに至るまでの背景や支えをよく見よ」、そのように聞こえてくる。

いつの間にか自分の経験を自分のものにし、ものしりがおに人を傷つける傲慢な私を叱ってくれたら、教えてくれる人との出遇い、それは渋柿が甘柿になる太陽のはたらきと同じではないだろうか。禅宗には「泥多ければ仏大なり」といい親鸞聖人はお念仏を「悪を転じて徳を成す正智」といわれる。いずれも出遇いが要、そして出遇い続けてゆくことが歩みとなる。

(山崎哲記)

ランドマーク 上野アメ横商店街 (台東区)

「もう年末だ!」ということで、今月は年末の混雑で有名な「アメ横」、上野アメ横商店街に伺いました。

アメ横は第二次世界大戦直後、物資が底をつく中、都内で各地にできた闇市からスタートした商店街です。闇市から始まった商店街としては、東京で唯一残る場所です。

アメ横の由来は2つあります。砂糖が手に入りにくかった戦後すぐ、満州などからの引揚者等が飴菓子や芋飴を販売する飴屋が数百軒でき、人々の間で大好評を博したためという説(飴屋横丁)。

もう1つは、アメリカ進駐軍の放出物資を売る店が多かったという説があります(アメリカ横丁)。

商店街のキャッチコピーは「対面販売で交渉次第で更にお安く!」。年末には毎年1日あたり50万人程の人出があるそうです。



アメリカ屋 (昭和27年創業)



二木の菓子 (昭和22年創業)

うばだいしゃ ～共悩共歩～ テーマ「時代」

優婆提舎(うばだいしゃ)論議の意。
経説等について仏や仏弟子が論議して意味を明らかにしたもの。
(例:浄土論=無量寿経優婆提舎願生偈)

今回は、私の故郷、滋賀県米原市でアートカフェを経営し、デザイナー兼アーティストとしても活動される貴詠さんにお話を伺いました。ちなみに私の中学校の同級生です。

◇アートカフェ開業のきっかけ

米原市(旧山東町)長岡という場所は、ゲンジボタル発祥の地として有名で、毎年多くの人が訪れるにもかかわらず、蛭が飛び交う天野川の近くに飲食店が無いことから、観光に来られた方にも気軽に休憩してもらえそうな場所として提供できたらと思っていたのがきっかけですね。

あとは、自分が好きにアーティスト活動が出来る場所が欲しかったというのもあるかな。

◇アートとジビエ料理の提供

地元の猟師さんが「鹿や猪のほとんどが獣害対策として駆除されているが、せっかくだから命なのだから、粗末に扱いたくない」という想いで活動されている事に感銘を受けて、「命」や「生きる」「循環」は、自身のアーティストとしてのテーマと合致していたから、「命をいただく」ということ、「食」も想いを伝えられるアートだと、ジビエ料理を中心に提供するカフェにすることにしましたよ。

◇地元愛、映像作品世界一

私にとって、父と祖父の想いが原点というか、父も祖父も地元を盛り上げようと地域に根ざして商売をしていたし、蛭を天皇陛下に献上し、蛭に生涯を捧げ、蛭を守る想いが強かった祖父の晩年を

描いた映像作品「天野川」(東京ビデオフェスティバル2001で日本ビクター大賞を受賞)は、私がこれからもずっと大切にしたい地元への愛が詰まってるよ。

◇プロフィール

8歳から基礎デッサンと油絵を学び、高校は京都の美術専門コースで洋画を専攻。

絵を動かしたいと演出や構成にも興味を持ち成安造形大学の映像クラスに入学。

世界39カ国から過去最多寄せられた2022年の頂点、Victor東京ビデオフェスティバルにて当時最優秀賞を最年少で受賞すると数多く上映会なども開催され、メディアにも多数出演。アーティストとしても作品展や個展など多数参加、開催。

2007年総合デザインプロデュース事務所「BILLYVERY」設立。
2021年4月にIma art cafe(アイマアートカフェ)をオープン。



鹿の角アート



店内の様子



(左)大橋(右)貴詠さん

今回は取材を快くお引き受け下さり、本当にありがとうございました。また、お父様、お爺様の意志は、間違いなく貴詠さんに継承されていると感じると同時に、時間を超えても尚、意志を受け取れることがあるのだと改めて思わされました。

(聞き手 大橋 伊知郎)

【Ima art café】

〒521-0242 滋賀県米原市長岡1213 ☎0749-55-3777
(金・土・日) 11:00～16:00/18:00～
(月・火) 11:00～18:00

報恩講

去る11月4日(土)、5日(日)の2日間にわたり報恩講が勤まりましたが、両日共に天候に恵まれ、多くの方にお参りいただきました。

布教は兵庫県・常福寺住職・日下貴行師をお招きし、法話の中で、「私たちが抱える孤独」という問題は、仏様の「大悲」のお心で、痛み悲しみ、そして広い世界へと解放して下さると、日常生活を通じた身近な方たちでお話しいただきました。

2日目には久しぶりに合唱団エコーの演奏会もあり、賑やかな報恩講となりました。お参りいただきました皆様には改めて御礼申し上げます。

また、来年の令和6年11月2日(土)、3日(日)には、「西徳寺開基400年、本堂建立100年」の法要を、本山佛光寺真覚御門主をお招きし勤めます。御門徒の皆様には、是非ともお参りいただきたく思いますので、よろしくお願いたします。

(副住職 大橋 伊知郎)



日下貴行師



御伝文拝読・高橋



合唱団エコー



参詣者

仏具磨き

10月25日(水)秋晴れの中、有志の方にお手伝いをいただき、報恩講に向けての仏具磨きをしました。お昼は皆さんと一緒にカレーを食べたり、近所の保育園児が見学に来たりと和気藹藹とした雰囲気でお磨きをし、綺麗になったお荘厳と共に報恩講をお迎えすることができました。お手伝いいただきました皆様、誠にありがとうございました。

(蓮井 邦宗 記)



城南ブロック会報告

9月22日、第107回城南ブロック会間法会を「三茶しゃれなあど」にて開催しました。19名のご参加をいただきました。今回からテキストが『「苦」を解き明かす』となります。初参加の方もあり、懇親会では改めて、大谷顧問を皮切りに自己紹介。顔なじみの方の新たな一面を知る場面もあり、大いに盛り上がりました。

三軒茶屋なら参加出来るという方、またお寺でもやって欲しいという色々なご意見を頂戴しました。少しでもご希望に添えるよう考えていきたいと思えます。

次回は令和6年5月12日「大井町きゅりあん」を予定しております。是非、ご予約ください。

(山崎 哲 記)



中央ブロック会報告

10月29日(日)、西徳寺梅檀の間におきまして、中央ブロック会間法会を開催いたしました。長きにわたって学んできたテキスト『正信偈』も最後となり、あらためて親鸞聖人が『正信偈』を著作されたお心を確認する機会となりました。

救いとは何か、信心とは何か、いのちとは何か、わからないことばかりですが、これからも皆さんと問いを共有していきたいと思えます。

次回は令和6年4月28日(日)開催予定です。多くのご参加お待ちしております。

(蓮井 邦宗 記)



蕎麦打ち見学会レポート

以前「えこお」にてご紹介いたしました、お寺にご縁のある大久保吉明さんを中心に、蕎麦打ち見学会が開催されました。

驚かされたのは、一つ一つの行程の緻密さ。水の配分に厳しく、また生地の所定の長さの正確さ、その奥深さに初めて触れました。そんな過程を経たお蕎麦。参加者の皆様、たいへん美味しくいただきました! 大久保さんを始めとした皆様、ありがとうございました。

(高橋 淳 記)





坊さんのツブヤッター



@テッシン

今年、入寺した深澤見弥君が油絵を「独立展」に出品し、入選を果たした。

美大卒の彼にとっては大切なライフスタイル。

表現できる手段をもっていることはとても贅沢だと思う。これらもお寺で、色々と学び、受信しながら描き続けてもらえらと思います。

#油絵 #アトリエは地下室 #タイトル赤色赤光



「二代墓地」、各種墓地、受付中。墓石への法名刻みはお問い合せください。

えこお志お礼

新潟県	梵行寺 様
新潟県	善養寺 様
埼玉県	代田 勝子 様
台東区	森下 幸雄 様



ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

内愚外賢

～賢者の信を聞き、愚禿が心を顕す～

令和5年(2023年)も年の瀬を迎え、もう残りあとわずかです。
今年は新型コロナウイルスによる影響も少なくなり、以前の生活がかなり戻ってきました。ただコロナ騒ぎが落ち着いても、日々いろいろなことに悩まされます。

幸せの語源は「仕合わせる(めぐり合わせ)」、ご縁と同じ意味だと教えられます。“これが幸せだ”という普遍的なものは存在しないでしょう。悪縁も良縁もご縁はご縁。それを素直にいただけない私たちだからこそ、教えが必要なのだと感じます。来年も迷い悩みながら尋ねてまいりたいと思います。

本年も当紙「えこお」をご愛読いただき、誠にありがとうございました。どうぞ皆様、良いお年をお迎えください。

(編集長 仲井 真裕)



酒を飲む若者

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

✉ saitokuji@ce.wakwak.com
🌐 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook